

音楽アーティスト科 ギターヴォーカルコース 受講科目一覧 2年次

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養Ⅱ	74	2	4
講義	音楽理論/調音Ⅱ	74	2	4
講義	音楽史Ⅱ	74	2	4
講義	表現Ⅱ	74	2	4
実習	分野別実習Ⅱ	74	2	2
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅱ	74	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅱ	74	2	2
実習	作品制作	148	4	4
実習	サウンドアナライズⅡ	74	2	2
演習	アンサンブル基礎Ⅱ	74	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅱ	74	2	4
合計		888	24	36

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ソングライティングⅡ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギターヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<p>・セイカ食品 シロクマ、ヴァーナル化粧品、アサカワ引越しセンター等のテレビCMコール</p> <p>・シンガーソングライターとして、精力的にライブ活動を行い、CDもリリースしている。</p> <p>上記の経歴を活かし、職業として求められる「楽曲制作の技術と知識、歌唱技術等」の指導を行う。</p>				
授業概要					
<p>作詞作曲に必要なアイデアを増やす。メロディー作り。コード進行の構築。リズムの種類に対する理解。作文・ポエムにならないような曲作り。</p>					
到達目標					
<p>・生徒が作曲する作品の多くは偏ったジャンル、かつ狭い範囲で作成することが殆どである為、生徒が持ち合わせていない作詞作曲に関する知識、情報、テクニックを紹介し、センスの幅を広げてもらうと。</p> <p>・生徒本人が持つ個性を自覚し、その個性を武器として、卒業後もその個性を追求し、アーティストとして作品作りが出来るようにする。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ミディアムテンポで楽曲を作成。イーブンやシャッフルの意識を再確認してもらう。作詞にて、景色と気持ちのバランス、慣用句の使い方、固有名詞を入れるポイントを捉える。
【前期】 5～8回目	アップテンポで楽曲を作成。ハイテンポにおけるコードの適切な配置、ブレイクやキメなどのリズムの仕掛け作り。歌詞、ワードに対するポジティブとネガティブの切り分け、スピード感のある言葉などを捉える。
【前期】 9～12回目	スローテンポ(バラード)で楽曲を作成。スローテンポにおける歌詞とコードの関係、響きを思考し、ギター、ピアノで弾き語る際のバリエーションを増やす。3拍子、6/8拍子、3連のリズムで楽曲を作成。拍子の理解を深める。
【前期】 13～16回目	マイナーKeyで楽曲を作成。メジャースケール、マイナースケールのおさらい。ハーモニックマイナー、メロディックマイナー、マイナーペンタニック、その他様々なスケールを使ったメロディ作りの実践。
【前期】 17～19回目	シャッフルビートで楽曲を作成。8ビートシャッフル、16ビートシャッフルの実践的な使い方。ダイアトニックコード、代理コード、セカンダリドミナントなど、コード理論の再認識。 ■前期試験: 楽曲の制作により「作曲のクオリティ/作詞のクオリティ/音楽要素の理解」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	ロックンロールで楽曲を作成。ロックンロールの定義についての研究。ロックとロックンロールの違いについて、ギターやピアノでのアプローチも含めて解説。子音、母音のタイミングなど、言葉のリズムについて考える。
【後期】 24～27回目	ブルースで楽曲を作成。ブルースを構築するコード、小節の理解。ブルーノートを使ったメロディを意識する。R&Bで楽曲を制作。昨今のリズムアンドブルースについて研究。リズム、アンサンブル、サウンドから”ノリ”について掘り下げる。
【後期】 28～31回目	ボサノヴァで楽曲を作成。ボサノヴァの文化について、J-Popにおけるボサノヴァの使われ方を研究。ボサノヴァとサンバの違いについて理解する。モンテウノ奏法について解説。ウイスパーボイスなど、楽曲に合わせた発声の研究。
【後期】 32～35回目	レゲエで楽曲を制作。レゲエの歴史について調べる。黒レゲエと白レゲエの違い。裏拍、バックビートの使い方、ギターの音色について研究。HIP HOPで楽曲を作成。HIP HOPの歴史について調べる。J-Popとの関わり。ワードの乗せ方など。
【後期】 36～37回目	ルーツミュージックを踏まえた楽曲の作成。習得してきた知識、情報、テクニックを駆使し、自身の個性を活かした楽曲を制作。様々な選択肢の中から、意思を持って取捨選択する。卒業後に向けてより実践的な作詞作曲。 ■後期試験: 楽曲の制作により「作曲のクオリティ/作詞のクオリティ/音楽要素の理解」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	作詞作曲は、シンガーソングライターやその他の音楽業界に於いても核となるとも重要な業務です。そして活動の限り作り続けていかなければなりません。楽曲へアウトプットしていくために必要な情報や知識のインプットとその方法を、様々な角度から音楽に触れて楽しみながらしっかり学んでいきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ソングメーカーⅡ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/聴音Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター/ギターヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	楽曲「小さな光」「少しだけ」「少年」などメジャーレーベルからCDをリリース。 自身もDUOでシンガーソングライターとして精力的にライブ活動を実施している。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「楽曲制作の技術と知識、歌唱技術等」の指導を行う。				
授業概要					
作詞・作曲に必要なアイデアを増やす。メロディー作り。コード進行の構築。リズムの種類に対する理解。作文・ポエムにならないような歌詞作り 生徒自身で作成したオリジナル楽曲に対して編曲をする。編曲における各種楽器の理解、logicX及びPC(Mac)操作					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 生徒が作曲する作品の多くは偏ったジャンル、かつ狭い範囲で制作することが殆どである為、生徒が持ち合わせていない作詞作曲に関する知識、情報、テクニックを紹介し、センスの幅を広げてもらうこと。 生徒本人が持つ個性を自覚し、その個性を武器として、卒業後もその個性を追求し、アーティストとして作品作りが出来るようにする。 オリジナル曲をボイスメモ引き語りで完結させず、logicX上で管理し、自身のプロモーション活動及びアレンジャー委託用のヘッドアレンジを出来るようにする。 logicXの操作習得、自身オリジナル曲のファイル管理、各楽器の役割アプローチを理解する。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ミディアムテンポで楽曲作成：オープンやシャッフルの意識を再確認してもらう。作詞にて、景色と気持ちのバランス、慣用句の使いかた、固有名詞を入れるポイント
【前期】 5～8回目	アップテンポで楽曲制作：ハイテンポにおけるコードの適切な配置、ブレイクやキメなどのリズムの仕掛け作り。歌詞、ワードに対するポジティブとネガティブの切り分け、スピード感のある言葉とは。
【前期】 9～12回目	スローテンポ(バラード)で楽曲作成：バラードにおけるストリングスの使い方。1/16・1/32のクオンタイズの切り替え。6/8拍子で楽曲作成：スロー3連。logicXにて、テンポチェンジ、拍子チェンジのやり方
【前期】 13～16回目	マイナーkeyで楽曲制作：メジャースケール、マイナースケールのおさらい。ハーモニックマイナー、メロディックマイナー、マイナーペンタトニック。Ⅱm→Ⅴの実践的な使い方。
【前期】 17～19回目	シャッフルビートで楽曲制作：8ビートシャッフル16ビートシャッフルの実践的な違い方。Ⅰ、△Ⅳ△7、ⅥⅡmのトニックに関する解説と実践方法。「ラブソングのどこを切り取るのか？」について考えてみる ■前期試験：楽曲の制作により「作曲クオリティ/編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	ロックンロールで楽曲制作：ロックンロールの定義についての研究。ロックとロックンロールの違いについて、ギターとピアノのロックンロールアプローチの解説。歌詞：ライミングについて。母音を合わせるタイミングについて
【後期】 24～27回目	R&Bで楽曲制作：昨今のリズムアンドブルースについて、踊れるビートとはなにか？ベースとキックのシンクロについて再認識。音価、ノートOFFのコントロール。
【後期】 28～31回目	ボサノヴァで楽曲制作：ボサノヴァの文化について、J-Popにおけるボサノヴァの使われ方。ボサノヴァとサンバの違いについて理解する。モントゥーノ奏法について。ウィスパーボイスなど、楽曲に合わせた発声を研究する。
【後期】 32～35回目	レゲエで楽曲制作：レゲエの歴史について。黒レゲエ、白レゲエの違い。裏拍、バックビートの使い方。ギターの音色について、クリーン、クランチ、オーバードライブ、ディストーション、ファズ。
【後期】 36～37回目	jazzで楽曲制作：ジャズの種類、ビックバンド、スタンダード、モダン、ビバップなど。スイングの概念について。モードスケール・オルタードスケールの実践的な使い方。セカンダリードミナントの実践的な使い方。 ■後期試験：楽曲の制作により「作曲クオリティ/編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「作曲クオリティ/編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	作詞・作曲は、音楽業界では中心になります。楽曲がなければ、レコーディンもできないし、ライブもできない、PAや照明などの業種も存在しなくなります。アーティストは楽曲を作成し販売をする商売です。その為に必要なノウハウをDAWを使って一緒に勉強していきましょう。
備考	参考書「Logic Pro X 10.2 徹底操作ガイド」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループの歴史と体系Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギターヴォーカル/ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ロックバンド「凶鑑」にてドリーミュージックよりアルバムを全国リリース ・FREAK等、アーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、アンサンブル力等」の指導を行う。 				
授業概要					
<p>様々なリズムを基調とした楽曲を用い、ロック・ファンク・ジャズ等、実際の曲それぞれのグルーブを学んでいきます。リズムを演奏する、からグルーブを生み出す、へ昇華していきます。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・より高度なリズムへの対応。 ・リズム感の向上。 ・グルーブを感じられる演奏の習得。 ・楽曲に応じたグルーブで演奏できる。 ・グルーブを感じられる演奏ができる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【課題曲①～③】Immigrant Song/sex machine/Isn't she Lovely/リズム、グルーブの考察。テーマ、リフ、バックイングの練習。
【前期】 5～8回目	【課題曲④～⑥】I shot the sherrif/so what/Don't want you No more/リズム、グルーブの考察。テーマ、リフ、バックイングの練習。
【前期】 9～12回目	【課題曲⑦～⑨】The Chicken/Long Train Running(house ver)/Moanin'/リズム、グルーブの考察。テーマ、リフ、バックイングの練習。
【前期】 13～16回目	【課題曲9】Moanin'/リズム、グルーブの考察。テーマ、リフ、バックイングの練習。/テストレビュー/前期テスト
【前期】 17～19回目	前期まとめ ■前期試験：課題曲の演奏により「リズム / グルーヴ感 / ダイナミクス / 楽曲の把握」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【課題曲10～11】Led Boots/Getaway/リズム、グルーブの考察。テーマ、リフ、バックイングの練習。
【後期】 24～27回目	【課題曲12～14】Street Walkin' Woman/End of the Road/Take Five/リズム、グルーブの考察。テーマ、リフ、バックイングの練習。
【後期】 28～31回目	【課題曲14～16】Take Five/Good Clean Fun/Don't You Worry bout A thing/リズム、グルーブの考察。テーマ、リフ、バックイングの練習。
【後期】 32～35回目	【課題曲17】spain/リズム、グルーブの考察。テーマ、リフ、バックイングの練習。/テストレビュー/後期テスト
【後期】 36～37回目	年間まとめ ■前期試験：課題曲の演奏により「リズム / グルーヴ感 / ダイナミクス / 楽曲の把握」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / グルーヴ感 / ダイナミクス / 楽曲の把握」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	楽譜通り演奏できる事も大事ですが、ノリの良い演奏をする為には楽曲やジャンルに対してより深い理解が必要です。楽譜に表現できない部分を感じ、演奏してみましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	表現Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギターヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	The 8th Music Revolution Hi-Gain大会でグランプリを獲得。・V3新人オーディション20thファイナリストに選出)そのポテンシャルの高さを披露。2012年には、Fukuoka Music Factoryの第6弾ファイナルアーティストに選出される。2016佐賀年気球世界選手権応援ソングに「Life」が採用される。2020年配信弾き語りワンマンライブ「Voyage」を開催。				
授業概要					
自ら選んだ楽曲を歌いこみながらテクニックをきめ細やかに、また感情表現をより深めながらシンガーとしての自らをワークショップスタイルの中で確立していきます。生徒それぞれにまだ獲得できていない表現方法を課題曲として与え、獲得に導く。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた課題曲に対し、生徒自身がその楽曲に合う表現方法を考慮しパフォーマンスすることができるようになる。 ・既存曲のカバーをする際も、オリジナル曲を自身でパフォーマンスする際も、オーディエンスに届く歌唱、音色(声色)選びができるような思考を定着させる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	課題曲1(日本語の楽曲で自由選択)
【前期】 5～8回目	課題曲2(日本語の楽曲、それぞれに必要なテクニックのある楽曲を講師より)
【前期】 9～12回目	課題曲3(英語の楽曲で自由選択)
【前期】 13～16回目	課題曲4(英語の楽曲、それぞれに必要なテクニックのある楽曲を講師より)
【前期】 17～19回目	表現・パフォーマンス(課題曲1～4の中で1曲をライブシミュレートパフォーマンス) ■前期試験:課題曲の歌唱により「歌唱時の音色(声色)の使い方 / 歌詞への理解度 / 総合表現力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	レパートリー1(自身の財産となるようなレパートリー楽曲の追求)
【後期】 24～27回目	レパートリー2(自身の財産となるようなレパートリー楽曲の追求)
【後期】 28～31回目	レパートリー3(自身の財産となるようなレパートリー楽曲の追求)
【後期】 32～35回目	レパートリー4(自身の財産となるようなレパートリー楽曲の追求)
【後期】 36～37回目	模擬ライブパフォーマンス(課題曲1～4&レパートリー1～4の中から数曲を選択し一定時間、MCも含め20分ほどのライブパフォーマンスを構築する) ■後期試験:課題曲の歌唱により「歌唱時の音色(声色)の使い方 / 歌詞への理解度 / 総合表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱時の音色(声色)の使い方 / 歌詞への理解度 / 総合表現力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	表現の幅、歌唱における様々なテクニックなど、さらにより高度なものへと押し上げ、自分自身がどのように表現したいのかをオーディエンスに確実に伝えることができるように磨き上げていきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニングⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター/ギターヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	KAN、浜崎あゆみ、林原めぐみなど様々なアーティストのバックコーラスやレコーディング制作に携わる。 23歳の時にアニメセイバーマリオネットact5エンディング「風の詩を聴きながら」でメジャーリリース。 その後ヴォイストレーナーとして多数アーティスト(元生徒はDAIGO、太田在etc)の指導を行う。 上記の経験を活かし楽曲制作並びに音楽理論の実技指導を行う。				
授業概要					
歌唱の基礎であるチェストボイス～ミックスボイス(ミドル)～ヘッドボイスの声区融合とリズム感を習得していく。また様々な歌唱テクニックを習得していく。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々なスケールを用い、声区融合を目指す。また、4分音符、8分音符、1拍3連、16分音符のリズムを体で理解し、歌唱へ反映させていく。 ・様々な歌唱テクニックを習得し歌唱へ反映させていく。 ・チェストボイス～ミックスボイス(ミドル)～ヘッドボイスの声区融合の習得。歌唱のためのリズム感を習得。様々な歌唱テクニックを習得。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	個人発声状態チェック。トレーニングメニュー説明&実践。スケール発声。リズムトラックを使ったリズムトレーニング。
【前期】 5～8回目	Level1の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲①での実践。(チェストボイス、裏声、ウイスパー等のテクニックに挑戦。)
【前期】 9～12回目	Level2の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲②での実践。(コブシ、しゃくり、フォールのテクニックに挑戦。)
【前期】 13～16回目	Level3の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲③での実践。総合的ボーカルディレクション。
【前期】 17～19回目	まとめ。テスト対策。 ■前期試験：課題曲の歌唱により「発声に関する用語、仕組み/発声 / リズム」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	Level5の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲⑤での実践。総合的ボーカルディレクション。
【後期】 24～27回目	Level6の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲⑥での実践。総合的ボーカルディレクション。
【後期】 28～31回目	Level7の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲⑦での実践。総合的ボーカルディレクション。
【後期】 32～35回目	Level8の発声とリズムのトレーニングメニュー実践。課題曲⑧での実践。総合的ボーカルディレクション。
【後期】 36～37回目	まとめ。テスト対策。 ■後期試験：課題曲の歌唱により「発声に関する用語、仕組み/発声 / リズム」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声に関する用語、仕組み/発声 / リズム」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声とリズムは歌唱の基礎で最も重要な技術です。しっかりと向き合うことにより確実に成長させましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムギターバックギンク/カッティングⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギターヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	テレビCM「ビブレ」音源制作 ・LA☆CAPE「暗黙の了解」/作曲 また演奏においてはマイク・スターン、マーカス・ミラー、ポール・ジャクソンなど、世界で活躍するアーティストとも共演。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、編曲の技術と知識等」の指導を行う。				
授業概要					
複雑なテンションコード、指盤上の度数の配置、様々なスタイルのストローク、理論も交えながらコードの応用を学ぶ。 ・スケール、コード理論を学ぶ。 ・運指を学び、ギターの仕組みを理解する。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルなバックギンクを考えることが出来る。 ・リズム良くコード進行が弾けるようになる。 ・コード理論を理解する。 ・楽曲のアレンジ等にコードを利用する。 ・楽曲のコード進行をアレンジ出来るようになる。 ・コードの成り立ちを理解することにより、キーの理解、作曲等に応用する。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【課題曲①】楽曲の考察とリズムの把握、テーマ&バックギンクの練習
【前期】 5～8回目	【課題曲①】テンションコードでのバックギンク、フレーズ考察、Scale考察→フレーズ作成
【前期】 9～12回目	【課題曲①】アドリブプレイの様々なアプローチの考察、ボキャブラリーを増やす。
【前期】 13～16回目	【課題曲②】楽曲の考察とリズムの把握、テーマ&バックギンクの練習
【前期】 17～19回目	【課題曲②】テンションコードでのバックギンク、コード進行のアナライズ、Scale考察: Dominant Scaleの理解と使用 ■前期試験: 課題曲の演奏により「コードフォーム/コード進行の演奏」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【課題曲③】楽曲の考察とリズムの把握、テーマの練習
【後期】 24～27回目	【課題曲③】バックギンクの練習、テンションコードでのバックギンク
【後期】 28～31回目	【課題曲③】コード進行のアナライズ、Scale考察→フレーズ作成
【後期】 32～35回目	【課題曲③】仕上げ: チェックを兼ねたSession形式の発表会
【後期】 36～37回目	年間まとめ、総復習 ■後期試験: 課題曲の演奏により「コードフォーム/コード進行の演奏」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「コードフォーム/コード進行の演奏」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	コードをしっかり弾けることはとても大切なことで、ギタリストはソロに注目しがちですが、演奏のほとんどはコードを弾くことです。理論や複雑なコードを学んでいくにつれ、多彩なバックギンクが弾けるようになります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオワーク		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	作品制作	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギターヴォーカル/ギター/ベース/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン ・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、表現力等」の指導を行う。				
授業概要					
基礎課程で積み上げてきた知識、技能の総体としてクリエイティブな応用実践で音楽やパフォーマンス作品を作り上げていきます。また、グループプロジェクトとして企画、打合せ、譜面制作、リハーサル、レコーディング、ステージ本番に至るスケジューリングを行い、構成員の考えや芸術観などお互いにコネクトしながらより良い制作の方法を考えることにも重点を置きます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・エンターテインメントの基本構造の理解、表現学習、作品制作、ステージ発表などを習得のサイクルとし、徐々に表現レベルを上げていきます。 ・メンバー全員でひとつのプロジェクトを作ることを経験し、今後の活動に生かすことが出来るようにし、且つクオリティーの高い楽曲制作と演奏が出来るようにシミュレーションを重ねます。 ・自身のポテンシャルを高めて、将来的な可能性の幅を広げることが可能になります。 ・チームワーク、協調性を養います。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	決められたメンバーと協力し合い、ひとつのプロジェクトを作り、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【前期】 9～16回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【前期】 17～24回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【前期】 25～32回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【前期】 33～38回目	前期の授業で制作してきた作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■前期試験：作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 39～46回目	後期はより高度なプロジェクトコンセプトをグループごとに思考し、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【後期】 47～54回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【後期】 55～62回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【後期】 63～70回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【後期】 71～74回目	後期の授業で制作した作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■後期試験：作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一作品をグループで作りに上げるプロセスの中で生じる葛藤や苦悩という生みの苦しみを体験しながら、作品完成時に感じる達成感や喜びを授業を通してシミュレーションしておきましょう。また基礎課程で培ったパーツを組み合わせる応用課程のクリエイティビティも存分に発揮してください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループアンサンブル実習		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギターヴォーカル/ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ロックバンド「凶鑑」にてドリーミュージックよりアルバムを全国リリース ・FREAK等、アーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、アンサンブル力等」の指導を行う。 				
授業概要					
<p>様々なリズムを基調とした楽曲を用い、ロック・ファンク・ジャズ等、実際の曲それぞれのグルーヴを学んでいきます。リズムを演奏する、からグルーヴを生み出す、へ昇華していきます。当授業ではアンサンブル形式で練習していきます。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・より高度なリズムへの対応。 ・リズム感の向上。 ・バンドで一体となってグルーヴする演奏の習得。 ・楽曲に応じたグルーヴで演奏できる。 ・一体感のある演奏ができる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【課題曲①～③】Immigrant Song/sex machine/Isn't she Lovely/アンサンブル形式での練習、発表。グルーヴの研究。
【前期】 5～8回目	【課題曲④～⑥】I shot the sherrif/so what/Don't want you No more/アンサンブル形式での練習、発表。グルーヴの研究。
【前期】 9～12回目	【課題曲⑦～⑨】The Chicken/Long Train Running(house ver)/Moanin'/アンサンブル形式での練習、発表。グルーヴの研究。
【前期】 13～16回目	【課題曲9】Moanin'/アンサンブル形式での練習、発表。グルーヴの研究。/テストレビュー/前期テスト
【前期】 17～19回目	前期まとめ ■前期試験：課題曲の演奏により「リズム / グルーヴ感 / ダイナミクス / 楽曲の把握 / 一体感 / チューニング」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【課題曲10～11】Led Boots/Getaway/アンサンブル形式での練習、発表。グルーヴの研究。
【後期】 24～27回目	【課題曲12～14】Street Walkin' Woman/End of the Road/Take Five/アンサンブル形式での練習、発表。グルーヴの研究。
【後期】 28～31回目	【課題曲14～16】Take Five/Good Clean Fun/Don't You Worry bout A thing/アンサンブル形式での練習、発表。グルーヴの研究。
【後期】 32～35回目	【課題曲17】spain/アンサンブル形式での練習、発表。グルーヴの研究。/テストレビュー/後期テスト
【後期】 36～37回目	年間まとめ ■後期試験：課題曲の演奏により「リズム / グルーヴ感 / ダイナミクス / 楽曲の把握 / 一体感 / チューニング」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / グルーヴ感 / ダイナミクス / 楽曲の把握 / 一体感 / チューニング」の6項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	バンド全体で一つのグルーヴを演奏することは難しいですが、グルーヴしているバンドの演奏の一体感は聴く人を高揚させ、動かすことができます。そんな演奏を目指して頑張ってみましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オリジナルライブ実習Ⅱ①		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギターヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。 ミッキー吉野(ゴダイゴ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。				
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> 指定した課題曲を歌唱、演奏、パフォーマンスを実施。 バンド演奏とのアンサンブル練習。 コーラスワークを学ぶ。 					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ライブ時の演出、パフォーマンス方法を考えられるようになる。 歌詞の理解、演奏時のパフォーマンスを考えられるようになる。 ハーモニー、コード感など音感の底上げを行う。 バンドとしてのアンサンブル力強化。 歌唱、パフォーマンスを通じ、楽曲に込められた想いをオーディエンスに伝えられるようになる。 バンド演奏での歌唱ができるようになる。 ハーモニーを自分で考えられるようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【課題曲①】ミディアムテンポ、8Beatの楽曲選定。パワーコードなどで演奏と歌唱を実施。楽曲の歌詞の理解、ディスカッション。 ハーモニー練習。アンサンブル練習。パフォーマンスを動画などに撮り、客観的な自己分析。
【前期】 5～8回目	【課題曲②】簡単なアルペジオ、コード弾きの楽曲選定。楽曲の歌詞の理解、ディスカッション。 ハーモニー練習。アンサンブル練習。パフォーマンスを動画などに撮り、客観的な自己分析。
【前期】 9～12回目	【課題曲③】16Beat、ダンスブルな楽曲の選定。楽曲の歌詞の理解、ディスカッション。 ハーモニー練習。アンサンブル練習。パフォーマンスを動画などに撮り、客観的な自己分析。
【前期】 13～16回目	これまでのライブ実習で行った楽曲にて、ライブウィークの課題曲決定。バンドとしてのアンサンブル、パフォーマンス決定。リハーサル。
【前期】 17～19回目	【課題曲④】ミディアムテンポで、アルペジオ、ハイコードなど多用した楽曲選定。楽曲の歌詞の理解、ディスカッション。 ハーモニー練習。アンサンブル練習。パフォーマンスを動画などに撮り、客観的な自己分析。 ■前期試験：課題曲の歌唱・演奏により「パフォーマンス / アンサンブル / ハーモニー」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【課題曲⑤】楽曲の中で、簡単なソロが入った曲を選定。楽曲の歌詞の理解、ディスカッション。 ハーモニー練習。アンサンブル練習。パフォーマンスを動画などに撮り、客観的な自己分析。
【後期】 24～27回目	【課題曲⑥】ブルース。歌いながら、運指が発生する楽曲の選定。楽曲の歌詞の理解、ディスカッション。 ハーモニー練習。アンサンブル練習。パフォーマンスを動画などに撮り、客観的な自己分析。
【後期】 28～31回目	【課題曲⑦】カッティングを多用した楽曲選定。楽曲の歌詞の理解、ディスカッション。 ハーモニー練習。アンサンブル練習。パフォーマンスを動画などに撮り、客観的な自己分析。
【後期】 32～35回目	ライブウィークの課題曲決定。バンドとしてのアンサンブル、パフォーマンス決定。リハーサル。
【後期】 36～37回目	【課題曲⑧】シンプルな英語を用いた楽曲を選定。楽曲の歌詞の理解、ディスカッション。 ハーモニー練習。アンサンブル練習。パフォーマンスを動画などに撮り、客観的な自己分析。 ■後期試験：課題曲の歌唱・演奏により「パフォーマンス / アンサンブル / ハーモニー」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「パフォーマンス / アンサンブル / ハーモニー」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ライブ実習の目的は、主にパフォーマンスとアンサンブルです。カラオケとは違い、バンドのリズムは常に揺れています。揺れているからこそ、自身で引っ張っていくことができます。そこが楽しさであり、面白いところなんです。そして、歌詞を伝える事も大事ですが、お客さんにどういふ風に自分が写っているかを確認し、自分が求めている姿に少しでも近づいていけるようになります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オリジナルライブ実習Ⅱ②		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギターヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。 ミッキー吉野(ゴダイゴ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・アンサンブル基礎Ⅱに引き続き、指定した課題曲を歌唱、演奏、パフォーマンスを実施。 ・バンド演奏とのアンサンブル練習。 ・コーラスワークを学ぶ。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アンサンブル基礎Ⅱをもとに、ライブ時の演出、パフォーマンス方法を考えられるようになる。 ・歌詞の理解、演奏時のパフォーマンスを考られるようになる。 ・ハーモニー、コード感など音感の底上げを行う。 ・バンドとしてのアンサンブル力強化。 ・歌唱、パフォーマンスを通じ、楽曲に込められた想いをオーディエンスに伝えられるようになる。 ・バンド演奏での歌唱ができるようになる。 ・ハーモニーを自分で考えられるようになる。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【課題曲①】ミディアムテンポ、8Beatの楽曲選定。パワーコードなどで演奏と歌唱を実施。楽曲の歌詞の理解、ディスカッション。 ハーモニー練習。アンサンブル練習。パフォーマンスを動画などに撮り、客観的な自己分析。
【前期】 5～8回目	【課題曲②】簡単なアルペジオ、コード弾きの楽曲選定。楽曲の歌詞の理解、ディスカッション。 ハーモニー練習。アンサンブル練習。パフォーマンスを動画などに撮り、客観的な自己分析。
【前期】 9～12回目	【課題曲③】16Beat、ダンスブルな楽曲の選定。楽曲の歌詞の理解、ディスカッション。 ハーモニー練習。アンサンブル練習。パフォーマンスを動画などに撮り、客観的な自己分析。
【前期】 13～16回目	これまでのライブ実習で行った楽曲にて、ライブウィークの課題曲決定。バンドとしてのアンサンブル、パフォーマンス決定。リハーサル。
【前期】 17～19回目	【課題曲④】ミディアムテンポで、アルペジオ、ハイコードなど多用した楽曲選定。楽曲の歌詞の理解、ディスカッション。 ハーモニー練習。アンサンブル練習。パフォーマンスを動画などに撮り、客観的な自己分析。 ■前期試験:課題曲の歌唱・演奏により「パフォーマンス / アンサンブル / ハーモニー」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【課題曲⑤】楽曲の中で、簡単なソロが入った曲を選定。楽曲の歌詞の理解、ディスカッション。 ハーモニー練習。アンサンブル練習。パフォーマンスを動画などに撮り、客観的な自己分析。
【後期】 24～27回目	【課題曲⑥】ブルース。歌いながら、運指が発生する楽曲の選定。楽曲の歌詞の理解、ディスカッション。 ハーモニー練習。アンサンブル練習。パフォーマンスを動画などに撮り、客観的な自己分析。
【後期】 28～31回目	【課題曲⑦】カッティングを多用した楽曲選定。楽曲の歌詞の理解、ディスカッション。 ハーモニー練習。アンサンブル練習。パフォーマンスを動画などに撮り、客観的な自己分析。
【後期】 32～35回目	ライブウィークの課題曲決定。バンドとしてのアンサンブル、パフォーマンス決定。リハーサル。
【後期】 36～37回目	【課題曲⑧】シンプルな英語を用いた楽曲を選定。楽曲の歌詞の理解、ディスカッション。 ハーモニー練習。アンサンブル練習。パフォーマンスを動画などに撮り、客観的な自己分析。 ■後期試験:課題曲の歌唱・演奏により「パフォーマンス / アンサンブル / ハーモニー」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「パフォーマンス / アンサンブル / ハーモニー」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ライブ実習の目的は、主にパフォーマンスとアンサンブルです。カラオケとは違い、バンドのリズムは常に揺れています。揺れているからこそ、自身で引っ張っていくことができます。そこが楽しさであり、面白いところです。そして、歌詞を伝える事も大事ですが、お客さんにどういう風に自分が写っているかを確認し、自分が求めている姿に少しでも近づいていけるようになりましょう。
備考	